

国家公務員共済組合連合会 新別府病院 内視鏡センター

先端医療の導入と徹底した感染対策で
高度な内視鏡治療を提供

大分県別府市のほぼ中央に位置する新別府病院は、地域住民の健康増進や予防医療、疾病治療、救急医療を行う中核病院として発展してきました。同院の内視鏡センターは、ESD(粘膜切開剥離術)やFNA(超音波内視鏡ガイド下穿刺)などの先端医療をいち早く導入し、いかなる内視鏡治療にも対応できるよう先進機器の充実や手技の習得を図っています。中でもESDは県内屈指の症例数を誇り、地域のパイオニア的施設として厚い信頼を得ています。さらに24時間オンコールで医師、内視鏡技師各1名が救急に対応する万全の体制をとるなど、市民のライフラインである救急(急性期)医療の提供に貢献しています。

同センターは大分県で唯一ライブセミナーを実施できる設備を有しており、年1回近隣の医療従事者を対象にライブセミナーを開催しています。消化器内科副部長の中川晴雄先生は、「ライブセミナーは今年で9回目を迎えましたが、これまで最新のテーマを選択し、第一線でご活躍されている医師をお招きしてきました。今後も九州全体の内視鏡治療のレベルアップに寄与することを目指し、このセミナーを続けていきたい」と言われます。

また同センターでは、内視鏡技師会のガイドラインを遵守したマニュアルを作成してスタッフの作業を均一化し、スコープの患者間洗浄・消毒を徹底するなど、感染対策にも力を入れています。さらに、現在ではほとんどの処置具がディスボ化されているそうです。消化器内科部長の



大分県別府市大字鶴見3898番地
院長：中村夏樹
病床数：269床
年間内視鏡検査数(平成17年度)：8,846例
上部消化管 5,600例 下部消化管 2,515例 ERCP 333例 EUS 110例
BF 182例 PEG 104例 その他 2例
スコープ本数：56本
上部消化管用 30本(うちERCP用 6本、EUS用 5本、2チャンネル処置用 2本) 胆道内視鏡 2本 下部消化管用 12本 小腸用 2本
気管支用 10本
自動洗浄器設置台数：4台
スタッフ：医師6名 他研修医、内視鏡技師5名、看護師1名、事務1名

香川浩一先生は「処置具のディスボ化は、感染対策または性能面においても患者さんに安全な検査や治療を提供できる、患者サービスの一環として捉えています。現場が望む最新機器や処置具の導入は、病院側も必要な設備投資だと考えてくれています」と言われ、これまでの取り組みが高い信頼と理解を得ていることがうかがえました。今後は、「ニーズが高まる治療内視鏡により特化し、市内だけでなくより広い地域の患者さまに、安全で高度な医療サービスを提供していきたい」と、さらなる展望をお話いただきました。



内視鏡センターのみなさん